

じっきょう 家庭科資料

(通巻 69号)

みんなで家庭科を

No. **54**

巻頭

キャリアと家庭の
両立を考える

もくじ／

キャリアと家庭の両立を考える	1
「香育」の意義と有用性	5
“自助具” ー自立生活を支えるものづくりー	10

キャリアと家庭の両立を考える

株式会社マザーネット 代表取締役社長 上田理恵子

1. 最初の困難は、希望の保育所に入れること

私は、大学卒業後ダイキン工業へ入社しました。夫が銀行員だったので、転職になれば会社を辞めなければならないと思っていました。しかし、長い間転職がなく、私も仕事が面白くなって働き続けたいと思うようになりました。そして、30歳で男の子が生まれました。先輩から、仕事と子育ての両立は難しいと聞かされていたのですが、子どもを保育園に預けて働こうと思っていました。11月に出産しましたので、翌年4月に入所できる保育園を探すと、私が住んでいる市では、前年の4月から7月の間に出産していないと、4月入所が難しいことがわかりました。大変困りましたが、探し回った末、マンションの一室にある家庭保育所に入れました。その時に、希望の保育所に入所するためには出産時期を考えないといけない、また、その時期は住んでいる市によって違って来る、といったことがはじめて分かりました。そこで、働き続けるために本当に必要な情報を、これから出産するお母さんたちに伝えた

いと、1994年7月に「『キャリアと家庭』両立をめざす会」を第二子出産の3日前に1人で立ち上げました。

2. 相談が多かったのは、「子どもが病気の時に預けるところがないこと」

ダイキン工業に勤めながら、平日の夜と土日に自宅の電話を開放してお母さん方からの悩み相談を受けたり、土曜日に会場を借りて、働くお母さんたちの情報交換の場を設けたりしました。東北や九州からも話を聞きに来られる人がいました。

会社でも少しずつ責任のある仕事を任されるようになり、役職定年になった方を、主に取引先の中小企業へコンサルタントとして派遣するという新規事業を担当することになりました。ある時、午前9時に得意先の社長様と会う約束をしていたら、早朝に突然、息子が熱を出したのです。この面談を断ったら、次から仕事は無くなるだろうし、会社にも迷惑をかける。でも息子は赤い顔をして苦しそう。実家の母のところへ連れていくには2時間かかり、とて

も間に合いません。

母に得意先の近くの喫茶店まで来てもらい、預けることにしました。悪い母親だと心で謝りながら、息子を抱いて地下鉄に乗ったのですが、席を代わってくれる人も無く、息子の頭を窓ガラスに当てて冷やしました。こんな時、子どもを預かってくれる人がいると助かるのと思いました。ワーキングマザーなら誰でも経験していることです。私のところにも、パートで仕事をされているお母さんから、子どもがインフルエンザになったけど今休むと解雇される、と泣きながら電話をしてきた人もいました。会を始めてから7年間でそんな悩みが2万件を超え、ワーキングマザーを支援する会社を作ろうと決意したのです。

3. 全国で初めて、派遣型病児保育サービスをスタート

ワーキングマザーのお役に立ちたいとの一心だったので、怖さを感じることもなく、一人で創業しました。病気になった子どもをお客様の自宅で預かるという会社が珍しかったので、新聞に「大阪に新会社、子どもの急病時に看護師派遣」という記事が載りました。しかし、すぐにハローワークから電話があり、看護師の派遣は法律で禁止されていることを知りました。そこで急きょ方針転換し、子育て経験

のある主婦を募集することにしました。でも、新聞に記事が出たことで、「助けてほしい」「助けたい」という双方から、電話が鳴りやみませんでした。

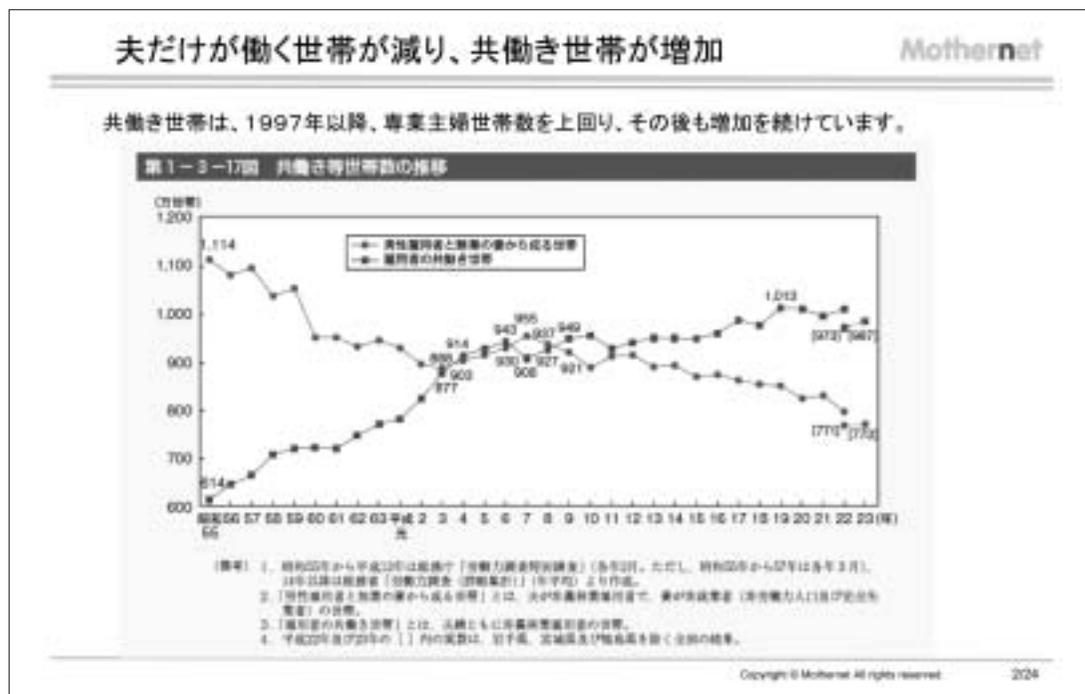
派遣型の病児保育を行うということは決めていましたが、どのようにサービスを提供するかは、まだ考えていませんでした。そこで、まず、病気の子どもの面倒を見てくれる人、当社ではケアリストと呼んでいますが、その方々を募集し、サービスの詳細は仕事を進めながら考えました。

ケアリストは、筆記試験や面接をして厳しくチェックしてから採用します。他人の家に入るので、信頼できる人かどうかが重要なポイントです。

創業当初は、サービスを受け入れることに、ご主人が反対されるケースがありました。また、料理を作ったりもしますので、ある県では他人が台所に入るような価値観を持ち込まないでほしいと言われたこともありました。

4. 都市部だけではなく、全国からニーズが寄せられて

現在、ケアリストは全国に約900人です。それでも足りないので、いつも募集しています。依頼があればどこへでも飛んで行って、ケアリストを育成します。お客様の多い地域とそうでない地域がありますので、需要と供給のバランスをとるのが難しいと



ころです。通常はできるだけ近くに住むケアリストが訪問するようにしています。お客様にはケアリストの第三希望までお聞きするようにしています。

病気のお子様のケアから家事に関することまで、詳細なマニュアルを用意しています。また、ワーキングマザーの置かれている立場や、働く女性の職場環境などを学ぶ研修会も開きます。家庭での事故を未然に防ぐための「ヒヤリ・ハットシート」も作りました。ダイキン工業勤務時代に使っていた危険予知の事例集をヒントに作成し、全員で情報共有しています。マニュアルには「七夕の笹は見ないように」という項目もあります。七夕の笹の短冊には、子どもたちの願い事が書かれています。「見て、見て」というお子様もいますが、志望校など、お客様にとっては知られたいくないことが書かれていることもありますので、話題にするのは禁止です。

全国から自筆のレポートがファックスで送られ、すべてチェックします。預かったお子様の様子などを記し、お客様に見ていただきますが、「熱が出てかわいそうだった」などの表現は避けます。お母様は自分が子どものケアをすることができず、心のどこかに罪悪感を抱いていることもあります。そんな時、「かわいそう」という言葉を見ると、胸が熱くなってしまうことがあるからです。

5. カボチャの煮物に涙ぐむワーキングマザー

どのサービスもお客様のご要望に応じて始めたものばかりです。例えば「子どもを看るついでにお風呂を洗ってほしい。掃除もお願いしたい。夕食も何か一品作ってくれたらうれしい」など、さまざまなご要望もあります。マザーネットの場合、料金は1時間2,288円（関西エリア・税別）で、時間内なら別のサービスをして追加工金はいただきませんので、いろんなご要望が集まったのだと思います。

ケアリストは、30代から70代前半までの主に専業主婦の方です。「今まで一生懸命家事をやってきたけど、夫にも子どもにも褒めてもらったことがなく、この仕事を通じて、ようやく自分が今まで頑張ってきたことを、社会のお役に立てることができます」という人も少なくありません。

肉じゃがやカボチャの煮物を用意していると、涙ぐむお母さんがいらっしゃいます。私も経験がありますが、外で働いていると、焼いたり炒めたりする料理はできても、時間のかかる煮物までは手が回りません。疲れて帰ってきて、食卓にあると涙が出るほどうれしいものです。

ケアリストさんも褒められるとうれしくなります。子育てが終わり、子どもが遠くの大学へ行くと、

ワーキングマザーの悩み 最新事情

Mothernet

【職場】

- ・出産前に担当していた仕事からはずれ、やりがいが感じられない
- ・キャリアアップが難しくなる
- ・上司がワーキングマザーをどう扱ってよいかわからない
- ・子どもの発熱でいつ呼び出しがあるかわからず、ドキドキしながら仕事をしている
- ・限られた時間の中で効率的に仕事をあげないといけない

【家庭】

- ・家事・育児を自分1人が抱えている
- ・夫は育児を手伝いたい気持ちはあるが帰宅が遅く、頼りにならない
- ・妻(父)母、(父)母が高齢になり、通院などのサポートが必要に

【保育所・学童保育】

- ・0歳児、1歳児が入所しにくい
- ・病気の時、預かってくれるところがない
- ・学童保育は17(18)時で終了。終了後子どもが家でひとり過ごすのが心配
- ・学童保育は小3(4)まで。夏休みなど、長期の休みのときの預け先がない。

【こころ&からだ】

- ・第2子、第3子を産む決断ができない
- ・仕事が終われば走って保育所へお迎えし、帰宅してからは、家事に追われる毎日。体の疲れがとれない
- ・母が働くことで、子どもに与える影響が心配
- ・40才近くになって出産したので、育児がきつい

【地域】

- ・小学校の行事、PTA活動は平日の昼が中心。仕事をあけて参加しにくい。
- ・仕事を抱えていても、クラス委員などの免除なし
- ・専業主婦の人がメインの活動のため、平日の午前中の活動も多く、そのために参加をさくのは大変

株式会社マザーネット調べ

心にぽっかり穴があくことがあります。そんな時、小さいお子様に触れることで、ケアリストさんの方が逆に癒されたり、力をもらったりするのです。

6. 育児が終わるころには、介護との両立が新たな問題に

介護保険の対象外になるシルバーケアをさせていただいています。育児が終わるころには、遠く離れて住む両親の介護が必要になるケースがあります。介護までいなくても、体の調子が悪くなり、病院へのつきそいが必要になる場合があります。この頃には責任のある仕事を任されることも多く、休みを取りにくいものです。シルバーケアの依頼が増えつつあります。

7. マザーネットがいらなくなる社会をめざして

若い世代を中心に、男性の意識は変わってきています。しかし、育児をしたいとの気持ちはあっても、今はどこの職場も余裕がなく、定時には帰れないというのが実態でしょう。男女ともにメリハリをつけて効率よく働けるよう工夫すべきです。例えば、ワーキングマザーは、職場に迷惑をかけたくないという意識がありますから、前日に仕事のスケジュールを立て、出勤と同時に仕事を始めるなど、細かい工夫をしています。

政府も、「成長戦略」として女性の登用や活用を提唱しています。各企業で女性の登用が進むのはうれしいのですが、働く女性をバックアップする仕組みが必要です。現在、約90社と法人契約を結んでおり、ある会社では当社の育児サービス費用の大半を負担しておられます。また、会社を訪問して「育児休業復帰セミナー」を開催し、ワーキングマザー向けに復帰後の家庭と仕事の両立について、体験談などを交えて講習しています。

ワーキングマザーの置かれた立場は、少しずつ前進しているという感じです。マザーネットはワーキングマザーがキャリアと家庭を両立する上での問題点を解決するため、設立されました。いつまでもマザーネットが必要な社会は、ワーキングマザーにとってやさしい社会ではありません。「いろいろ助けてもらったけれど、もう頼むことがなくなった」と言われる日がくるまで、一件一件心をこめて、サービスを提供していければ、と思っています。

上田理恵子（うえだりえこ）

1961年鳥取県生まれ。大阪市立大学生活科学部卒業。1984年ダイキン工業入社。食器洗浄機の開発などに携わる。1994年在職中に「『キャリアと家庭』両立をめざす会」を発足。2001年8月に会社を退職し、大阪市で株式会社マザーネットを創業。育児ケアや家事の代行サービスを展開する。現在、東京、福岡、長野に支社を持つ。育児休暇復帰準備セミナーや子ども自然体験スクールなども開催。2003年「大阪市きらめき賞」、2007年内閣府「女性のチャレンジ支援賞」、2010年関西財界セミナー賞「輝く女性賞」などを受賞。著書に『働くママに効く心のビタミン』がある。

株式会社マザーネットの主なサービス

【チャイルドケア】

- ・病気のお子様のケア（感染症も可）
- ・出張先へ同行したお子様のケア
- ・保育所や塾への送り迎えと夕食作りまでのサポート
- ・勉強や習い事などのエデュケーションサポート
- ・学童保育への送り迎えや宿題のサポート

【家事代行】

- ・夕食作り、お掃除など家事のサポート
- ・大掃除の代行
- ・産前・産後のお手伝い

【シルバーケア】

- ・高齢の元気なご両親の家事サポート

【保活コンシェルジュサービス】

- ・希望の保育所に入所するまでのサポート

【小・中学生のための自然体験スクール】

- ・夏休みなどの長期休み中に開催

【食材宅配サービス】

- ・農薬や化学肥料の少ない新鮮野菜などを自宅に配達 など



ケアリスト研修会の様子。病児の子どもとの遊びである「魚釣りゲーム」を実習して